

1. 需給見通し

農林水産省は、「砂糖及びでん粉の価格調整に関する法律」(昭和40年法律第109号)により、でん粉に関して適切な価格調整を図るため、半期ごとにでん粉の需給見通しを公表している。3月に公表したでん粉の需給見通しの概要は、次の通り。

でん粉の需給見通し

【平成28でん粉年度 (実績)】

需要量：265万3000トン (前年度比0.2%減)

供給量：266万2000トン (同1.0%減)

【平成29でん粉年度 (見通し)】

需要量：267万9000トン (同1.0%増)

供給量：268万4000トン (同0.8%増)

表1 でん粉の需給見通し

(単位：千トン)

		27でん粉年度 (実績)		28でん粉年度 (実績)		29でん粉年度 (見通し)			
		計	10-3月	4-9月	計	10-3月	4-9月	計	
需要	糖化製品	1,754	832	921	1,753	808	949	1,758	
	化工でん粉	336	171	166	337	166	170	336	
	その他(製紙用、ビール用、片栗粉など)	568	277	287	564	295	290	585	
	合計	2,658			2,653			2,679	
供給	前年度繰り越し	42	190		32			9	
	国産いもでん粉(生産量)	223	39	—	190	208	—	208	
		かんしょでん粉	35	151	—	39	29	—	29
		ばれいしょでん粉	188	1,084	—	151	179	—	179
	調整金 徴収 対象	コーンスターチ	2,273	68	1,187	2,271	1,074	1,219	2,293
		輸入でん粉 (糖化製品、化工でん粉用)	128	5	75	143	73	73	146
	輸入でん粉(その他用)	7	9	5	9	5	7	12	
	小麦でん粉	17		9	17	9	9	17	
	合計	2,690			2,662			2,684	
	次年度繰り越し	32			9			6	

資料：農林水産省「でん粉の需給見通しについて」

注1：でん粉年度とは、10月から翌9月まで。

注2：ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

表2 国内産いもでん粉の需給見通し

(単位：千トン)

		29年10月～30年3月 (見込み)			30年4月～9月 (見通し)			29でん粉年度計			
		かんしょ でん粉	ばれいしょ でん粉	上期計	かんしょ でん粉	ばれいしょ でん粉	下期計	かんしょ でん粉	ばれいしょ でん粉	計	
需要	交付金 対象 用途	糖化製品	9	16	26	8	13	21	17	29	46
		化工でん粉	2	16	18	1	16	17	3	32	34
		その他	6	22	28	6	22	28	12	44	56
		小計	17	54	71	15	51	66	32	105	136
	その他の用途	0	38	38	0	37	37	0	75	75	
	計	17	92	109	15	87	102	32	179	211	
供給	前期からの繰り越し	5	4	9	17	91	108	5	4	9	
	生産量	29	179	208	0	0	0	29	179	208	
	計	34	182	217	17	91	108	34	182	217	
次期への繰り越し		17	91	108	3	3	6	3	3	6	

資料：農林水産省「でん粉の需給見通しについて」

注1：でん粉年度とは、10月から翌9月まで。

注2：ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

注3：交付金対象用途の「その他」について

ばれいしょでん粉は、菓子類、麺類、水産練製品、冷凍調理食品、食肉製品、調味料、板紙（層間接着用）、水産養殖餌料などである。

かんしょでん粉は、菓子類、麺類、水産練製品、冷凍調理食品、食肉製品、建材などである。

注4：交付金対象用途外の「その他の用途」は、片栗粉などである。

(1) でん粉の需要量の見通し

用途ごとのでん粉の需要量の見通しは以下の通り。

【糖化用向けでん粉の需要量】

平成28でん粉年度は、前年度と同水準

28でん粉年度は、異性化糖の需要期である夏場の気温が、8月以降、前年度より低く推移したため、前年度を1000トン下回る175万3000トンとなった。

29でん粉年度の上期は、暖冬であった前年度と比較して気温が低い傾向にあるものの、下期は、異性化糖の需要期である夏場の需要が平年並みに回復するとの見込みから、前年度を5000トン上回る175万8000トンの見通しとなった。

【化工でん粉用向けでん粉の需要量】

平成28でん粉年度は、前年度からやや増加

28でん粉年度は、飼料、段ボール、食品向けの需要が増加したことなどから、前年度を1000トン上回る33万7000トンとなった。

29でん粉年度は、全体の需要がおおむね維持さ

れるとの見込みから、前年度を1000トン下回る33万6000トンの見通しとなった。

【その他用途向けでん粉の需要量】

平成28でん粉年度は、前年度からわずかに減少

28でん粉年度は、ビールや畜水産練製品向けの需要が減少したことなどから、前年度を4000トン下回る56万4000トンとなった。

29でん粉年度は、製紙・段ボール向けなどの需要の増加が見込まれることから、前年度を2万1000トン上回る58万5000トンの見通しとなった。

(2) でん粉の供給量の見通し

各種でん粉の供給量の見通しは以下の通り。

【かんしょでん粉の生産量】

平成28年産は、前年からかなり増加

28年産の原料かんしょについては、植え付け後の活着が良好で日照時間も多かったことから、か

んしょでん粉の生産量は、前年を4000トン上回る3万9000トンとなった。

29年産は、植え付けの遅れや9月以降の日照不足および多雨などの影響により、いもの肥大が抑制されたことなどから、前年を1万トン下回る2万9000トンと見込まれる。

【ばれいしょでん粉の生産量】

平成28年産は、前年から大幅に減少

28年産の原料ばれいしょについては、北海道における6月以降の長雨や8月の度重なる台風被害により収穫量が平年を大きく下回ったことから、ばれいしょでん粉の生産量は、前年を3万7000トン下回る15万1000トンとなった。

29年産は、全体的に生育は良好であったことから、前年を2万8000トンと大幅に上回る17万9000トンと見込まれる。

【コーンスターチの供給量】

平成28年でん粉年度は、前年度と同水準

コーンスターチの原料となるトウモロコシ(2016年産)は、わが国のコーンスターチ用トウモロコシの過半を供給する米国において、作付け時期の天候に恵まれたことから、生産量は3900万トン増加し、3億8500万トンの見込みとなり、必要量は安定的に供給された。

2017年産については、米国のトウモロコシ生産量が前年を1400万トン下回る3億7100万トンと見込まれるものの、2015年産以前と比べ、高い水準が維持されていることから、必要量は安定的に供給されるものと見込まれている。

29でん粉年度は、需要に応じた供給がなされるものとして、供給量はでん粉ベースで前年を2万2000トン上回る229万3000トンの見通しとなった。

【輸入でん粉の供給量】(糖化製品、化工でん粉用)

平成28でん粉年度は、前年度からかなり増加

28でん粉年度は、需要に応じた必要量が輸入され、前年度を1万5000トン上回る14万3000トンとなった。

29でん粉年度についても、需要に応じた必要量が輸入されると考えられ、前年度を3000トン上回る14万6000トンの見通しとなった。

【輸入でん粉の供給量】(その他用)

平成28でん粉年度は、前年度から大幅に増加

28でん粉年度は、用途に応じた必要量が輸入され、前年度を2000トン上回る9000トンとなった。

29でん粉年度は、昨今の需給動向を踏まえ、前年度を3000トン上回る1万2000トンの見通しとなった。

【小麦でん粉の供給量】

平成28でん粉年度は、前年度同

小麦でん粉は、主に畜水産練製品向けとして供給されており、28でん粉年度は1万7000トンとなった。

29でん粉年度についても、安定した供給がなされると見込まれ、1万7000トンの見通しとなった。

2. 輸入動向

【タピオカでん粉の輸入動向】

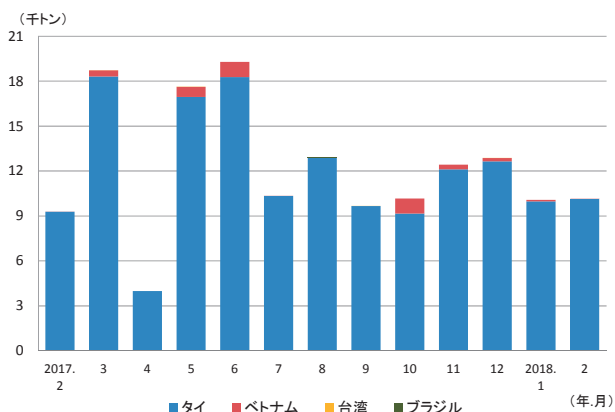
2月の輸入量は前年同月からかなり増加

財務省「貿易統計」によると、2018年2月のタピオカでん粉の輸入量は、1万132トン(前年同月比9.1%増、前月比0.5%増)と、前年同月からかなり増加した(図1)。

輸入先国はタイおよびベトナムで、輸入量は次の通りであった。

タイ 1万130トン
 (前年同月比9.1%増、前月比1.5%増)
 ベトナム 2トン
 (同92.0%増、同98.2%減)

図1 タピオカでん粉の国別輸入量の推移



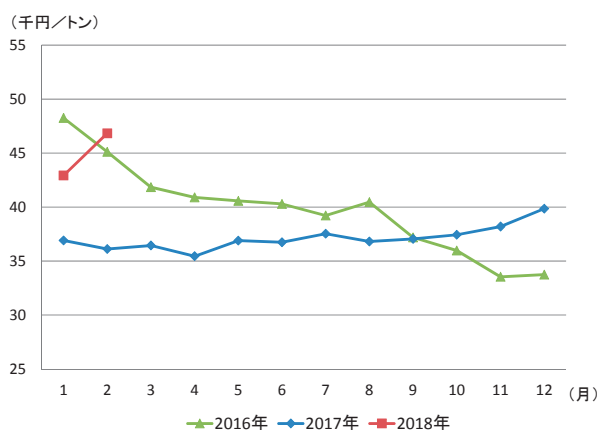
資料：財務省「貿易統計」
 注：HSコード1108.14-010、1108.14-020、1108.14-090

2018年2月の1トン当たりの輸入価格は、4万6825円(前年同月比29.7%高、前月比9.1%高)と、前年同月から大幅に上昇した(図2)。

国別の1トン当たりの輸入価格は、次の通りであった。

タイ 4万6782円
 (前年同月比29.6%高、前月比9.0%高)
 ベトナム 27万5000円
 (同10.0%高、同6.5倍)

図2 タピオカでん粉の月別輸入価格の推移



資料：財務省「貿易統計」
 注：HSコード1108.14-010、1108.14-020、1108.14-090

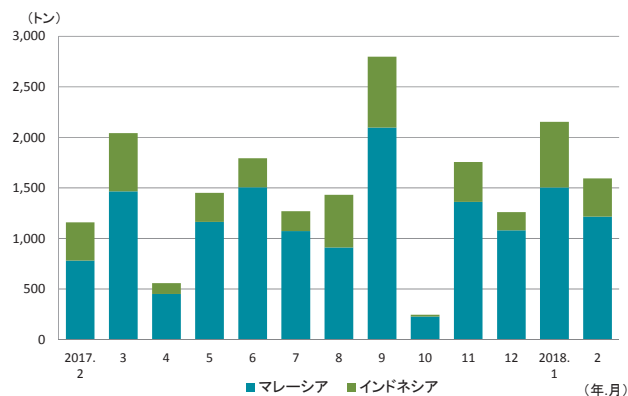
【サゴでん粉の輸入動向】 2月の輸入量は前月から大幅に減少

財務省「貿易統計」によると、2018年2月のサゴでん粉の輸入量は、1594トン(前年同月比37.5%増、前月比26.0%減)と、前年同月から大幅に増加した一方、前月から大幅に減少した(図3)。

輸入先国はマレーシアおよびインドネシアで、国別の輸入量は次の通りであった。

マレーシア 1216トン
 (前年同月比55.7%増、前月比19.2%減)
 インドネシア 378トン
 (前年同月同、同41.7%減)

図3 サゴでん粉の国別輸入量の推移



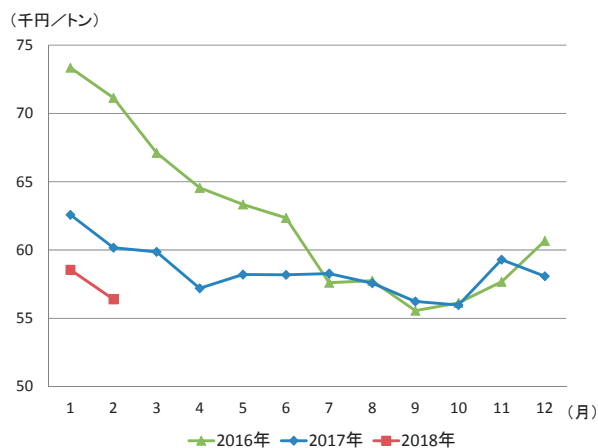
資料：財務省「貿易統計」
 注：HSコード1108.19-011、1108.19-012、1108.19-019

2018年2月の1トン当たりの輸入価格は、5万6391円(前年同月比6.3%安、前月比3.7%安)と、前年同月からかなりの程度下落した(図4)。

国別の1トン当たりの輸入価格は、次の通りであった。

マレーシア 5万6758円
 (前年同月比5.6%安、前月比4.5%安)
 インドネシア 5万5209円
 (同8.4%安、同2.4%安)

図4 サゴでん粉の月別輸入価格の推移



資料：財務省「貿易統計」

注：HSコード1108.19-011、1108.19-012、1108.19-019

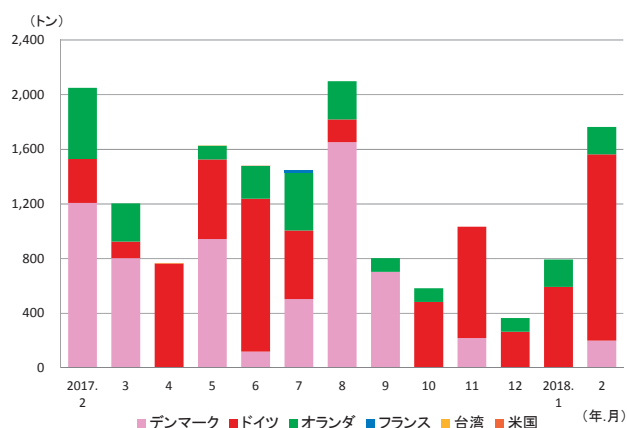
【ばれいしょでん粉の輸入動向】 2月の輸入量は前月から大幅に増加

財務省「貿易統計」によると、2018年2月のばれいしょでん粉の輸入量は、1764トン（前年同月比13.9%減、前月比2.2倍）と、前月から大幅に増加した（図5）。

輸入先国はドイツ、デンマークおよびオランダの3カ国で、国別の輸入量は次の通りであった。

ドイツ	1364トン
	（前年同月比4.2倍、前月比2.3倍）
デンマーク	200トン
	（同83.4%減、前月輸入実績なし）
オランダ	200トン
	（同61.5%減、前月同）

図5 ばれいしょでん粉の国別輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」

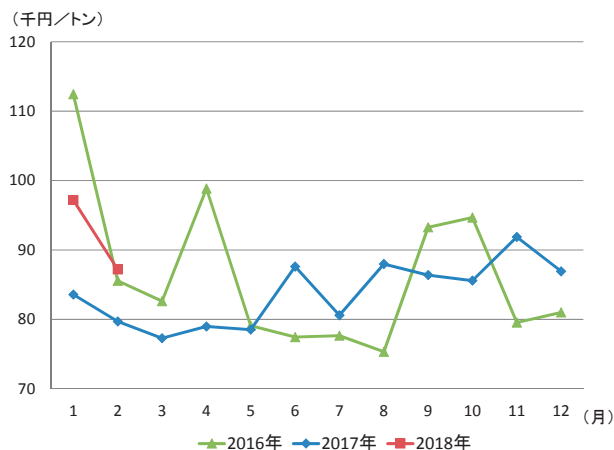
注：HSコード1108.13-010、1108.13-020、1108.13-090

2018年2月の1トン当たりの輸入価格は、8万7202円（前年同月比9.4%高、前月比10.3%安）と、前年同月からかなりの程度上昇した（図6）。

国別の1トン当たりの輸入価格は、次の通りであった。

ドイツ	8万7058円
	（前年同月比10.6%安、前月比13.2%安）
デンマーク	8万8015円
	（同15.7%高、前月輸入実績なし）
オランダ	8万7370円
	（同13.2%高、前月比0.5%安）

図6 ばれいしょでん粉の月別輸入価格の推移



資料：財務省「貿易統計」

注：HSコード1108.13-010、1108.13-020、1108.13-090

【でん粉誘導体の輸入動向】

2月の輸入量は前月からやや減少

財務省「貿易統計」によると、2018年2月のでん粉誘導体の輸入量は、2万9250トン（前年同月比4.8%増、前月比5.3%減）と、前月からやや減少した（図7）。

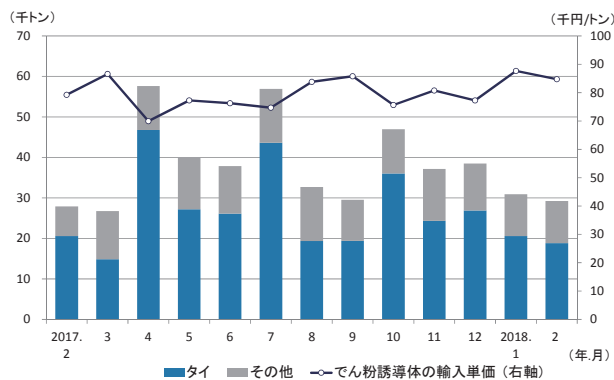
でん粉誘導体の輸入先国は16カ国で、最大の輸入先国はタイであった。主要輸入先国からの輸入量は次の通りで、タイが輸入量の約6割を占めており、次いで中国、フランスとなっている。

表3 でん粉誘導体の主要輸入先国および輸入量（2月）

	輸入量（トン）	シェア（%）
タイ	18,852	64.5
中国	2,368	8.1
フランス	1,444	4.9
ベトナム	1,407	4.8
ドイツ	1,134	3.9

2018年2月の1トン当たりの輸入価格は、8万4736円（前年同月比7.0%高、前月比3.3%安）と、前年同月からかなりの程度上昇した。

図7 でん粉誘導体の輸入量および輸入価格の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード3505.10-100

【デキストリンの輸入動向】

2月の輸入量は前年同月および前月から大幅に減少

財務省「貿易統計」によると、2018年2月のデキストリンの輸入量は、630トン（前年同月比57.3%減、前月比38.0%減）と、前年同月および前月から大幅に減少した（図8）。

デキストリンの輸入先国は7カ国で、デキストリンの輸入量は、上位輸入先国の数量および各国のシェアも含め、月ごとの変動が大きい。

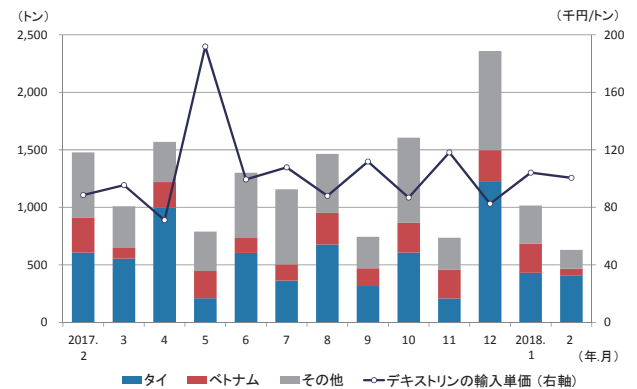
上位輸入先国からの輸入量は次の通りで、タイが輸入量の約6割を占め、次いでベトナム、中国となっている。

表4 デキストリンの主要輸入先国および輸入量（2月）

	輸入量（トン）	シェア（%）
タイ	405	64.2
ベトナム	61	9.7
中国	46	7.3
米国	43	6.9
ドイツ	29	4.6

2018年2月の1トン当たりの輸入価格は、10万481円（前年同月比13.5%高、前月比3.5%安）と、前年同月からかなり大きく上昇した。

図8 デキストリンの輸入量および輸入価格の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード3505.10-200

【コーンスターチ用トウモロコシの輸入動向】 2月の輸入量は前月から大幅に減少

財務省「貿易統計」によると、2018年2月のコーンスターチ用トウモロコシの輸入量は、20万3067トン（前年同月比11.7%減、前月比28.3%減）となり、前月から大幅に減少した（図9）。

輸入先国は、米国が7割を占め、次いで南アフリカ、ブラジルとなり、国別の輸入量は次の通りであった。

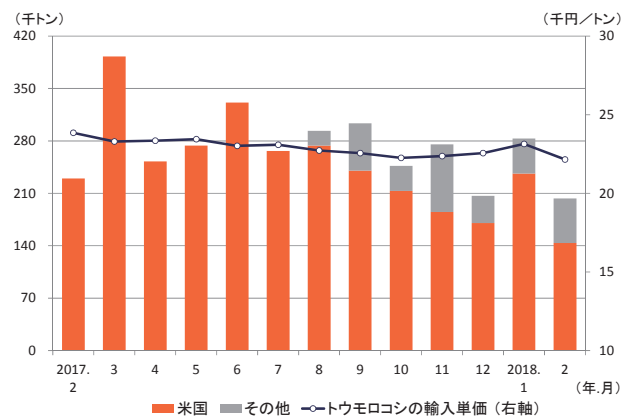
米国	14万3790トン
	（前年同月比37.4%減、前月比39.2%減）
南アフリカ	5万1507トン
	（前年同月輸入実績なし、同3.2倍）
ブラジル	7770トン
	（前年同月輸入実績なし、同74.2%減）

2018年2月の1トン当たりの輸入価格は、2万2155円（前年同月比7.1%安、前月比4.3%安）と、前年同月からかなりの程度下落した。

国別の1トン当たりの輸入価格は、次の通りであった。

米国	2万2613円
	（前年同月比5.2%安、前月比3.0%安）
南アフリカ	2万852円
	（前年同月輸入実績なし、同0.7%安）
ブラジル	2万2296円
	（前年同月輸入実績なし、同1.3%安）

図9 コーンスターチ用トウモロコシの輸入量および輸入価格の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード1005.90-091